

4. 今後の旧保高宿エリアのまちづくりへの提言

ワークショップでは、田園に囲まれたまちなかの「暮らし」に根ざした地域の宝がいろいろと、あちこちにあることを発見し、これを活かす今後の工夫を考えることができました。

フォーラムでは、「その宝を活かすのは人」であり、そこに暮らす人たちが、暮らしに息づく宝を掘り起こして進めるまちづくりが理想の姿であることを感じました。

一方で、この理想に到達するには、性急な方法は避け、段階を踏んで徐々に進めていくことが必要だと感じました。

ここでは、これらの気付きや発見の詳細を、わたしたちから安曇野市民、行政のみなさんに向けた提言として改めてまとめました。

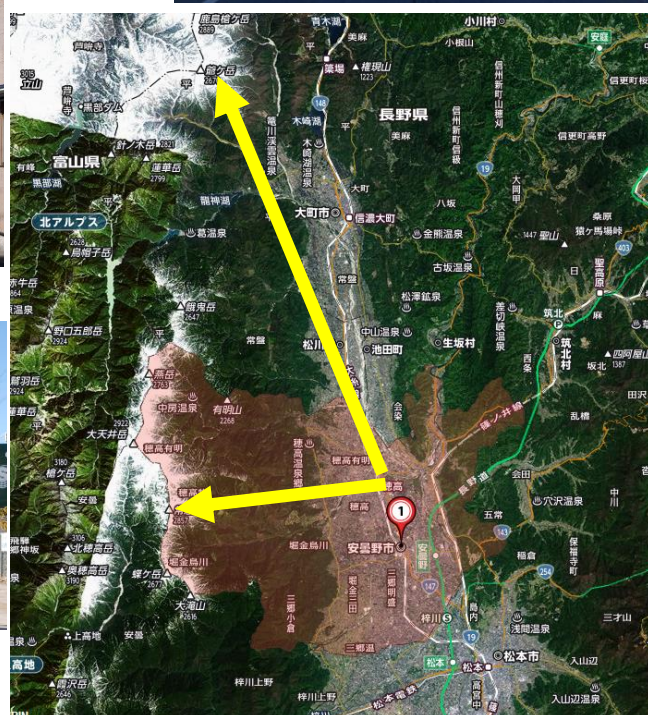
見つけた宝の特徴、これをふまえた今後のまちづくりの方向性、具体的な取り組みの提案等の順に整理しています。

4.1 保高宿でわたしたちが見つけた宝の特徴

このまちの土台は 山と水。山と水がおりなす舞台！

(1) 山並みのみえるまち

北西方向では爺ヶ岳、西方向には常念岳、有明山などエリア内各所から北アルプスの山並みを望むことができます。



(Yahoo! ロコ 空中写真)

(2) 水の流れて形作られてきたまち
山岳からの恵みである水は生活の根
源。様々なスタイルで水をまちのなか
で用いています



(3) 田園風景にとりかこまれているま
ち

旧宿場を囲む一帯には田園が広がり
ます。田園に通じる堰もこのまちを流れ
ており、安曇野の象徴ともいえる田園風
景が広がっています。



生活様式が変わり、山と水のおりなす舞台そのものが
変化してきているようです。

- ・水の便がよくなる → 水路はふさぐ
- ・車が必需品 → 道路が舗装でかさ上げされる
→ 古建物は位置が低くなり、建物のつくりを変
えていかなくてはならない



舞台の上での暮らしには 祭り、祈り、祝いや弔いの場があり
そのなかで多くの偉人が輩出されてきている

(4) 信仰からくるものがあちこちに

このエリアでは、穂高神社が生活の中の信仰や
地域のつながりをつくりだす重要な存在。ほかに
も道祖神、十王堂など様々な信仰の証が目に留ま
ります。

さらに、小川大系はじめ、様々な偉人たちが輩
出しています。



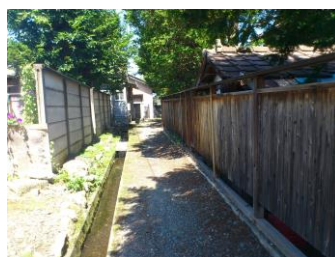
しかし、少子化、高齢化 舞台に暮らす世代も変わることで、
このような祭りや信仰についての意識も当然のことながら変化してきてい

舞台の上で展開する人々の暮らしやその姿には
裏と表 懐かしさと新しさ 様々な時代の流れが複雑に交じり合っている

(5) 懐かしいもの
新しいもの



(6) 表と裏



これらは、ゆっくりの時代の文化とスピードの時代の文化のせめぎ合いのなかで、残って来たり、再生されてきたものです。

どちらか一方の価値だけで作りあげることは難しく、そのバランスの取り方がこれからの時代には欠かせません。

4.2 宝探しから気づいた これからの保高宿のまちづくりのあり方

私たちの活動を通じて、「お宝の成り立ちやその変化に気づいて、多くの人たちで共有していくことが大切」だということを再認識しました。

これを実現させていくためには、次のような観点にたったしくみやしかけが必要と考えられます。

- ゆっくりとしたスピードのなかで気づきや記憶を呼び起こすしくみ（※）が重要。（保高宿を伝える物語、建物・雰囲気の演出、名残・痕跡の案内等）
- そのしくみを活かして、より多くの人々が気づき、思い出し、発見できるような機会が生み出されていくことが重要。
- そのしくみを動かし、機会を提供するうえで重要なのは人。
関わる人の交流、まちを支える人づくりが不可欠。

これらの点とお宝の3つの特徴を踏まえ、次の考え方に沿ったまちづくりを提案します。

お宝の3つの特徴

○このまちは山と水がおりなす舞台のようだ！

○その舞台の上での暮らしには 祭る、祈る、祝いや弔い が息づいている（暮らしに息づいた魅力がある）

○暮らしには、裏と表、懐かしさと新しさなど、様々な時代の流れや背景が複雑に交じり合っている

■宝を探せて、そこに気づき、いかせるまちの形に

→歩いてゆっくりと暮らして楽しめるまちへ

■穂高神社は切り離せない存在
ここに由来しつながら「暮らし」がいつまでも息づく流れを

→暮らしと共存するお宝が受け継がれるまちへ

■いろいろが交じり合うまちだからこそ、人と人も多様に交じりあえるしかけのあるまちに

→まちづくろいと人づくりで
さらに魅力あるまちへ

（※）このようなしくみの先進的な取り組みとして「文化資源マネジメントによるまちづくり」があげられます。文化財指定などを受けていないような地域の資源の魅力を、テーマやストーリーで整理し、語り伝えるしかけ、しくみを構築するまちづくりの手法です。
（巻末に山口県萩市等の事例を添付しました）

4.3 まちのかたちに関する提案 ～ゾーンと動線～

1. 歩いてゆっくりと暮らし楽しめるまちづくり
2. 暮らしと共存するお宝を受け継ぐまちづくり
3. 魅力をさらに高めるまちづくろいと人づくり

1. 歩いてゆっくりと暮らして楽しめるまちづくり

様々な時代の名残の中で様々な暮らしの速度が入り混じっているエリアです。宿場の面影を残す様々な古きよきものを現代流に活かすゆったり・ゆっくりした空間をエリアの中心に据え、その外周に「速く」移動できる空間を配するまちづくりを提案します。

エリア内にある様々な時代を伝え残す場（穂高神社、礪山美術館、旧保高宿、わさび畑・田園、東光寺・等々力家）などをめぐることの意味を持たせ、相互に結び、「安曇野を満喫できる保高宿回廊」を意識したまちづくりを提案します。

2. 暮らしと共存するお宝を

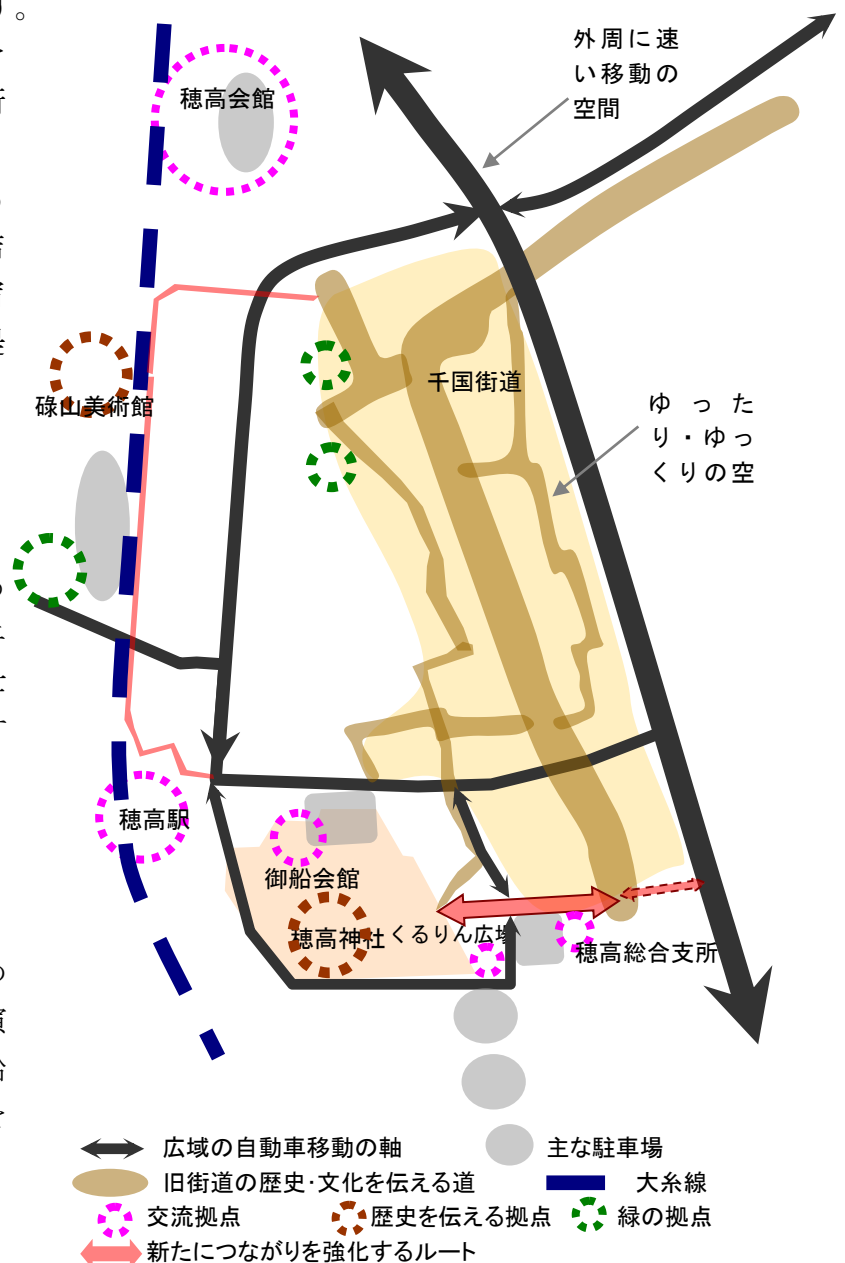
受け継ぐまちづくり

エリア内の広場や、眠っている建物、施設などを活かし、このエリアに暮らす方々同士、市民同士の交流のポイントや場を生み出すことを提案します。

3. 魅力を高める

まちづくろいと人づくり

巡ってまわる回廊の魅力を高めるため、プラスアルファとなる演出や、「まちづくろい」の考えに沿ったまちなみづくりの取り組みを推し進めることを提案します。



旧街道沿いまちづくりの概念

■ゾーン

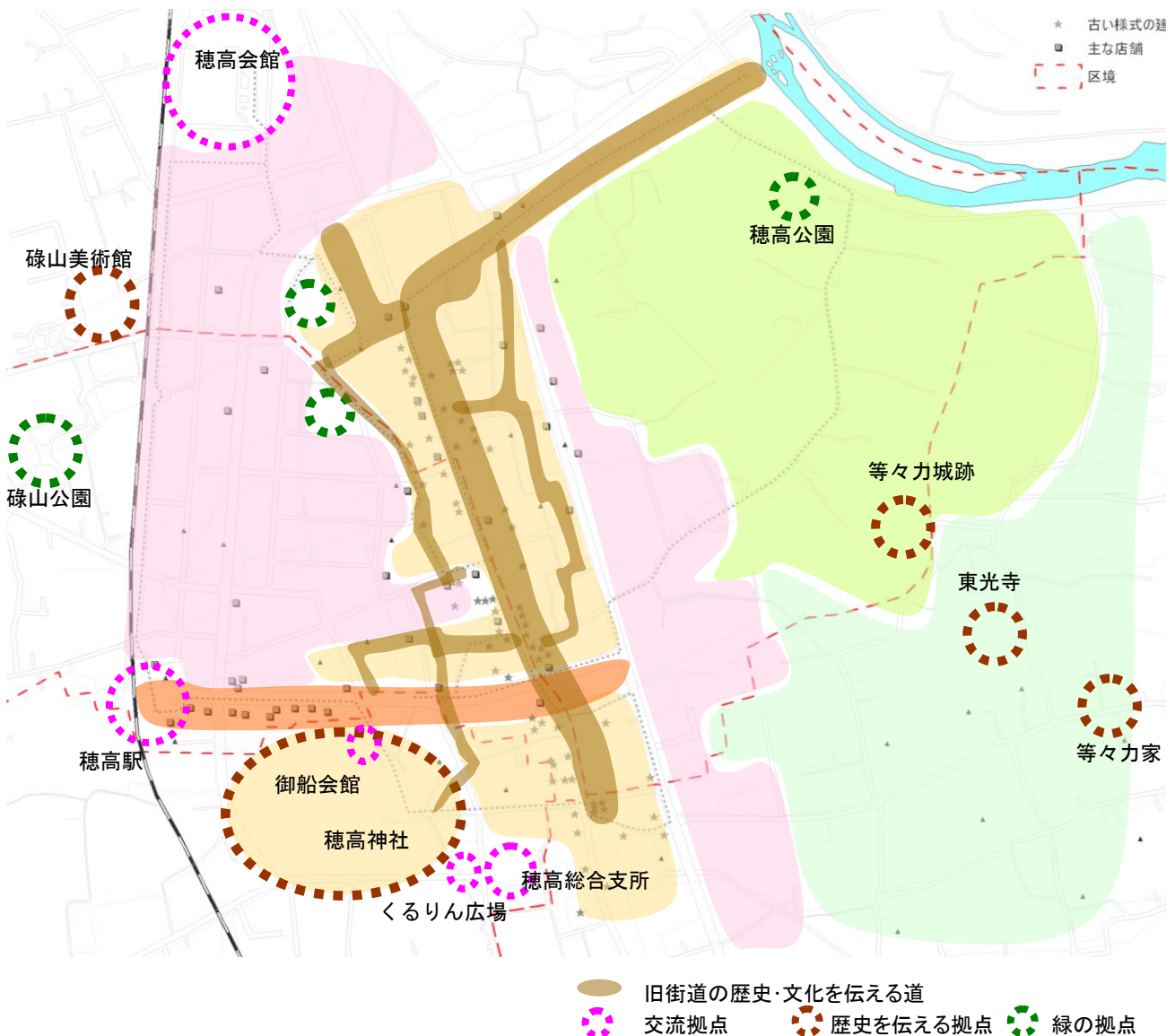
旧街道とこれに関連付く道沿いとその裏通り一帯を旧宿場の面影を残すひとつのまとまりとしてとらえます。

できるかぎり、このエリアに残る昔の面影を保つことを前提に考えます。

そのまわりに新たな町、その下流側にわさび畑エリア、水田エリアと続く環境をそのまま維持する形のまちをイメージします。

面・エリアの区

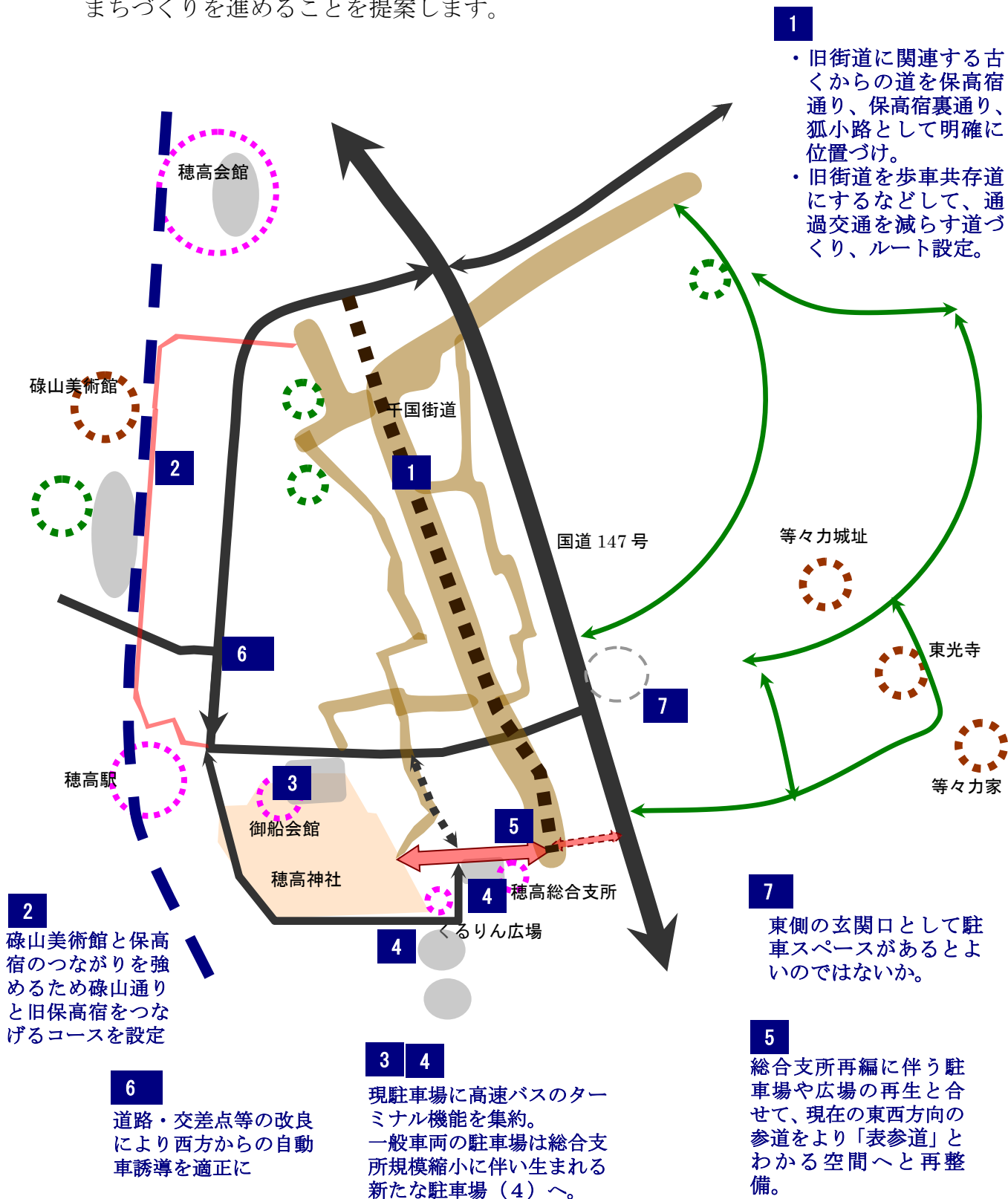
- 旧宿場の面影を残す空間
(大正時代から続く道沿いの空間)
- わさび畑・樹林・水田がー帯のエリア
- 水田耕作主体の田園集落
- 主に戦後形成されてきた市街地
- 穂高駅前の買い物エリア



対象エリア一帯のゾーン区分

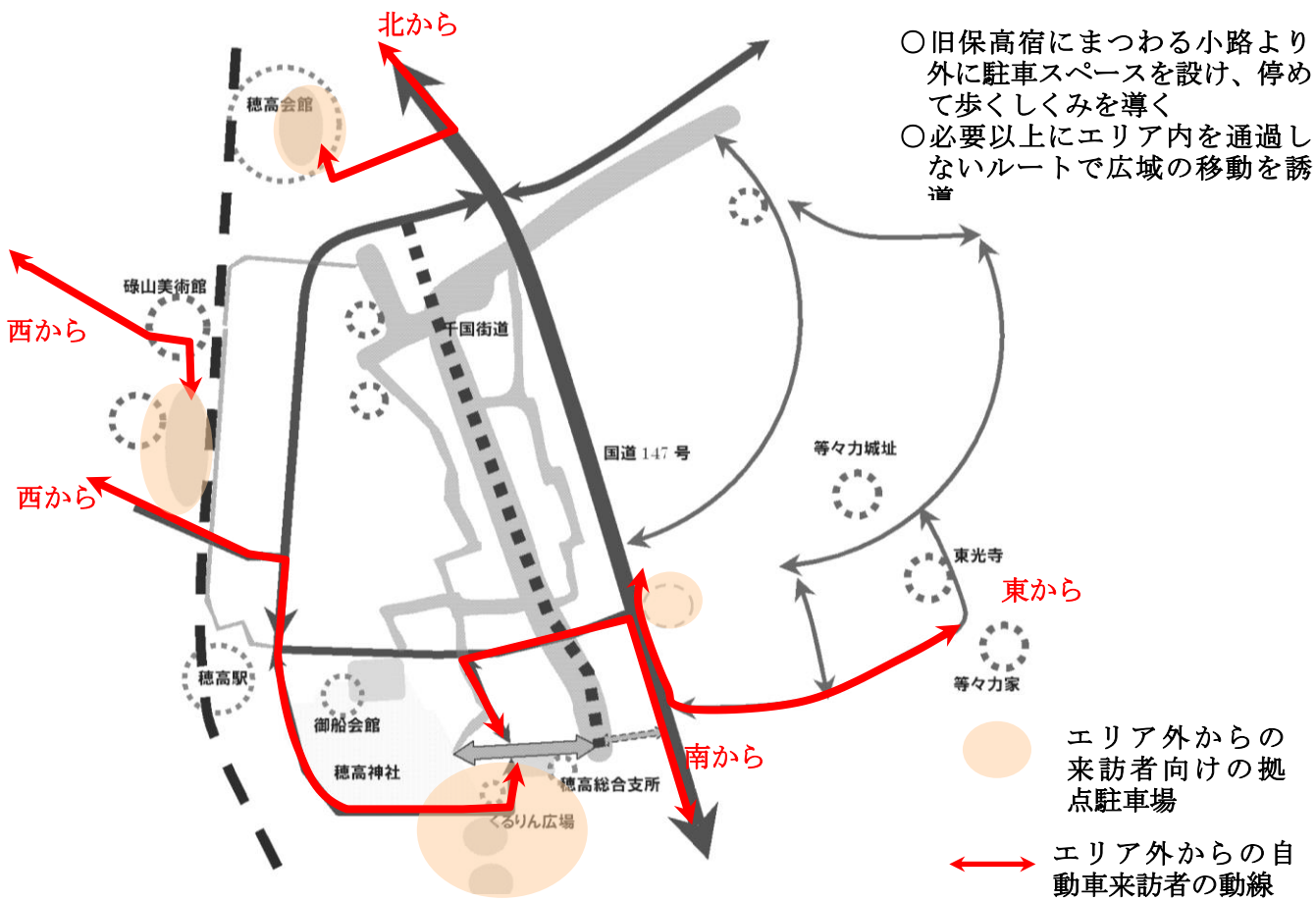
■拠点と動線

面の広がりを保ちながら、そのなかにある拠点やみどころをつなぐ動線や車を停める場所に工夫を加えることで、移動のしくみを変え、回遊できる回廊のまちづくりを進めることを提案します。

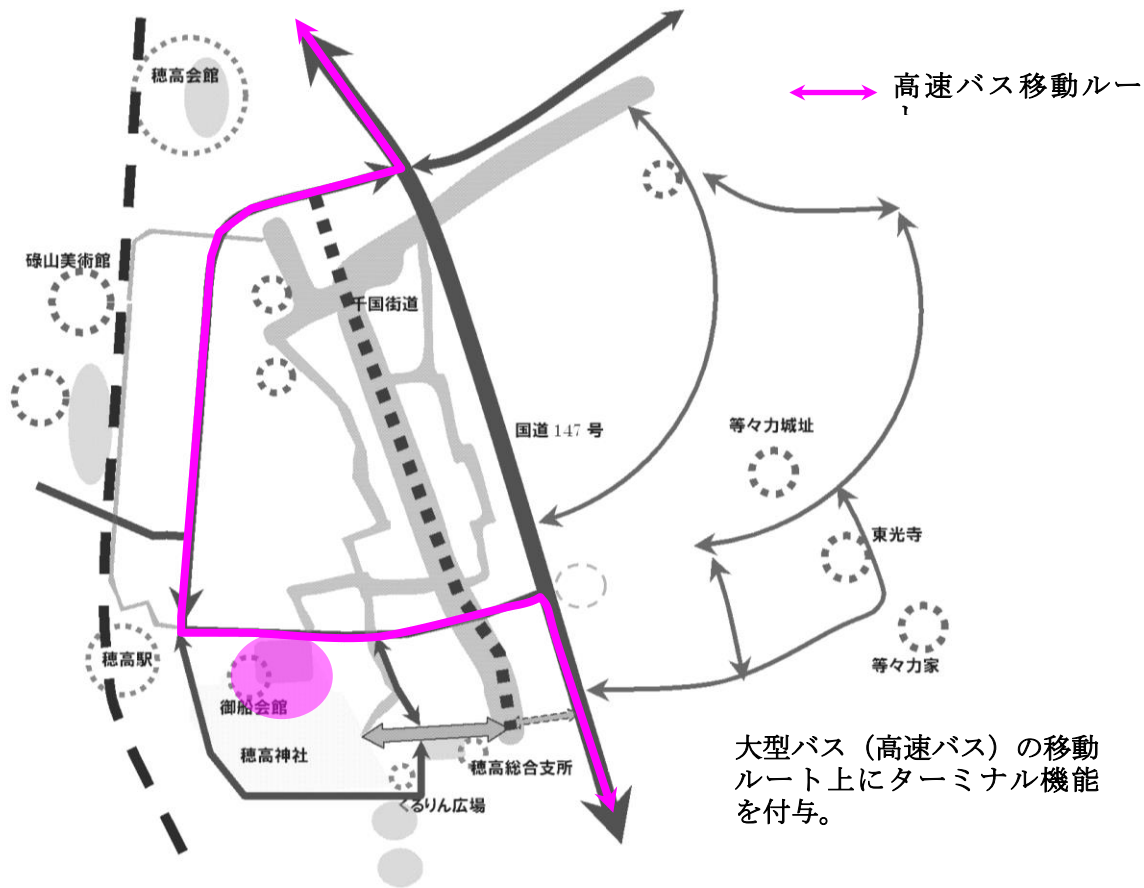


将来の動線整備の提案

【エリア外からの自動車での来訪者の動線】

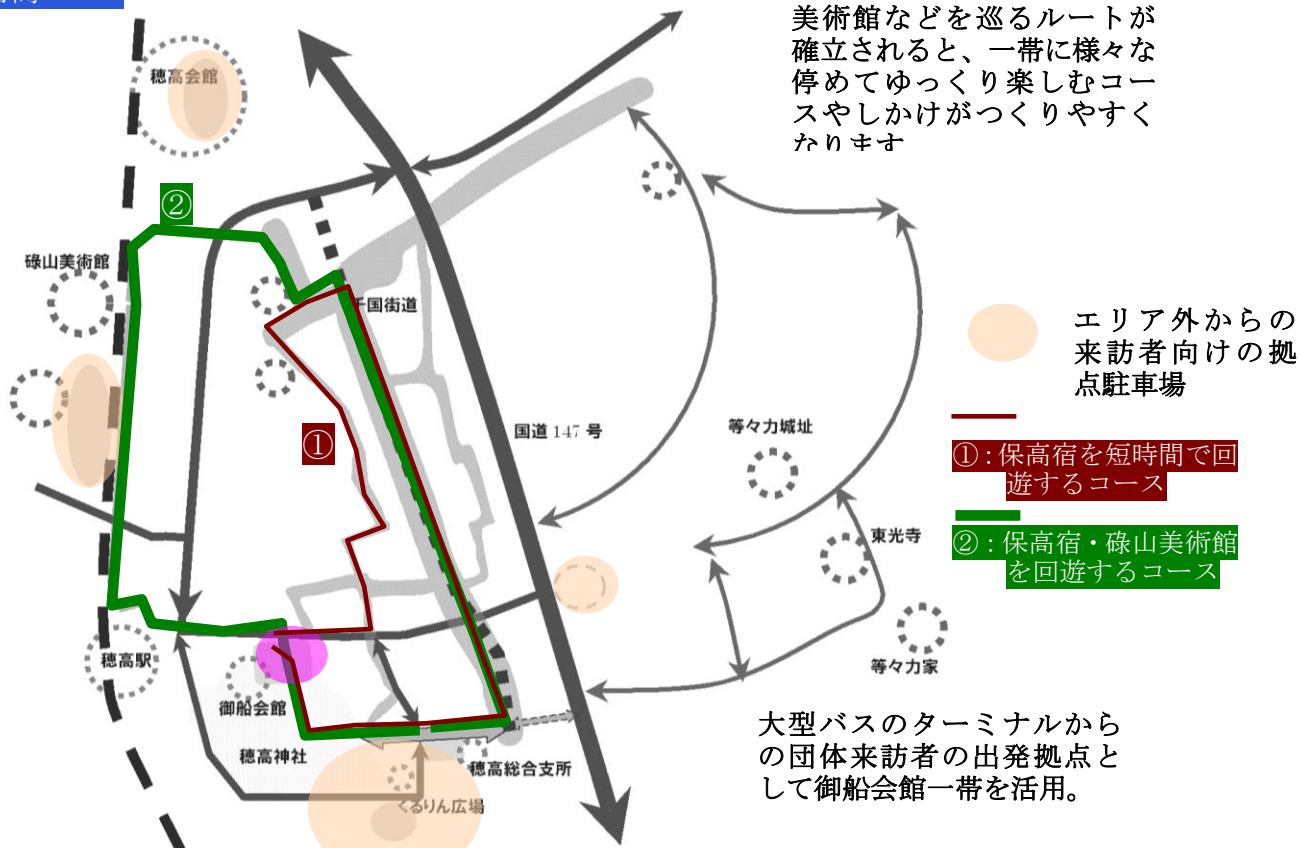


【高速バス動線】



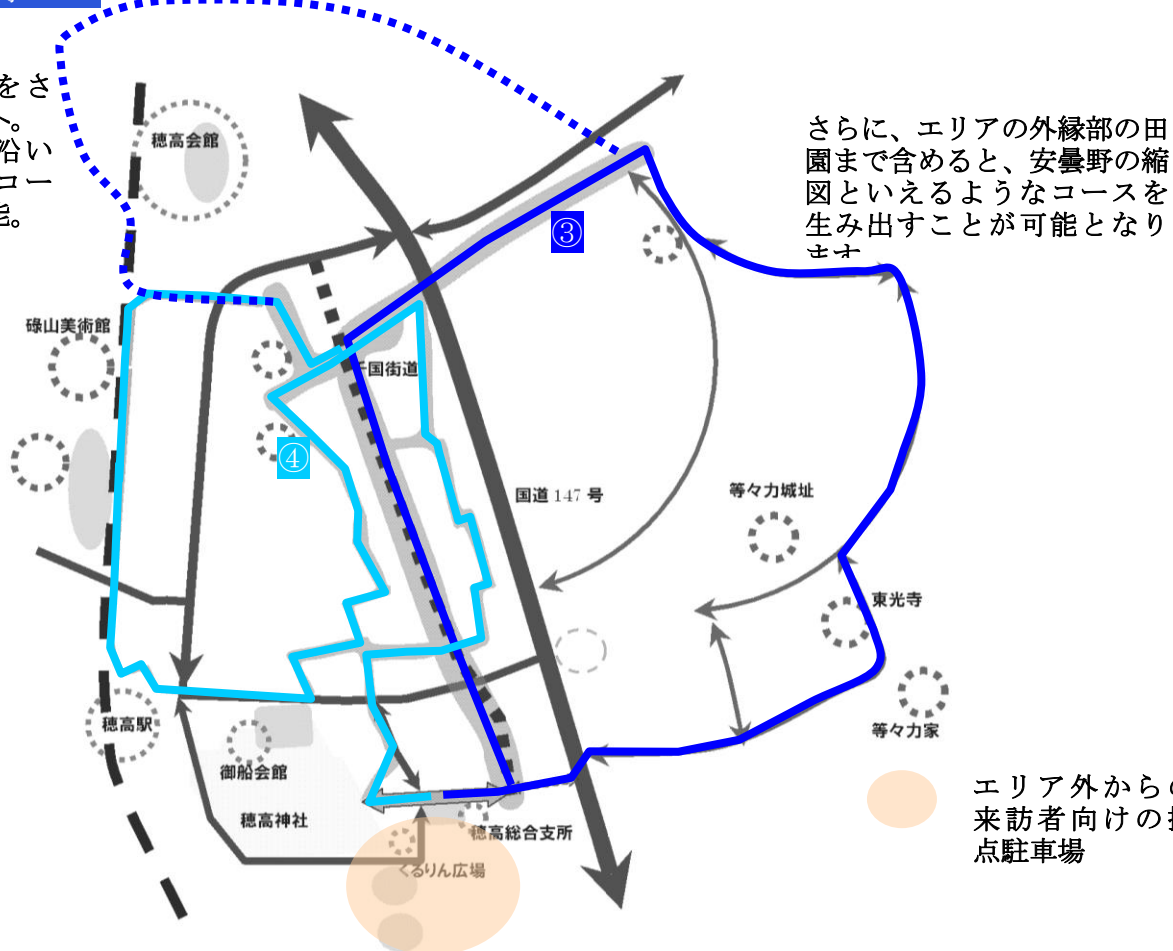
【来訪者の動線：駐車スペースから歩くコース】

短時間コース



長時間コース

旧街道をさらに北へ。穂高川沿いを巡るコースも可能。



4.4 まちづくり 10 の提案

1. 歩いてゆっくり暮らして楽しめるまちづくり

■提案 1 停めてゆっくり移動するしくみ、しかけづくり【関連：A2 B4】

- ・車で訪れても、車を降りて「ゆっくり」移動するまちへ
- ・駐車場の整備、ルート of 明確化
- ・駅前空間、高速バスターミナル空間の整備

■提案 2 散策ルートを整備【関連：A3・A4】

- ・碌山通りを活かしたまちの歴史資源をめぐる楽しみ・コースの設定
- ・保高宿外周の自然豊かな空間を満喫できる回廊
- ・案内サインの充実

■提案 3 穂高神社の表参道再生【関連：B4】

- ・国道 147 号から穂高神社の社殿に向かう東西方向の参道の再生
- ・支所建て替えに合せた湧水公園、駐車場整備と参道の再生

■提案 4 千国街道の再生【関連：A2】

- ・千国街道をもっと安心して歩ける空間に

2. 暮らしと共存する宝を受け継ぐまちづくり

■提案 5 拠点、交流ポイントの確保【関連：B3・B5】

- ・旧街道沿いの古民家を活用した活性化拠点づくり
- ・土蔵の活用
- ・まちなかの交流にあわせて 2 公園をリニューアル

■提案 6 楽しく気軽に参加・新たな交流が生まれる取り組み【関連：B2・B5】

- ・地区の祭り、既存の行事への参加促進の工夫
- ・新たなイベント

■提案 7 新たな賑わいのためのしくみ・しかけ【関連：B2・B3】

- ・空家、空店舗の活用、支援、助成
- ・まちゼミなどまちおこし活動

3. 魅力を高めるまちづくろいと人づくり

■提案 8 歴史文化遺産の保全とまちづくろい【関連：B1・B2】

- ・古い文化的資産の保存のための調査、補修
- ・まちなみ修景への助成
- ・道祖神や歴史的建造物のライトアップ
- ・山並みを意識した軸線の定めたまちなみの修復・整備

■提案 9 まちなか水辺の創出【関連：A1】

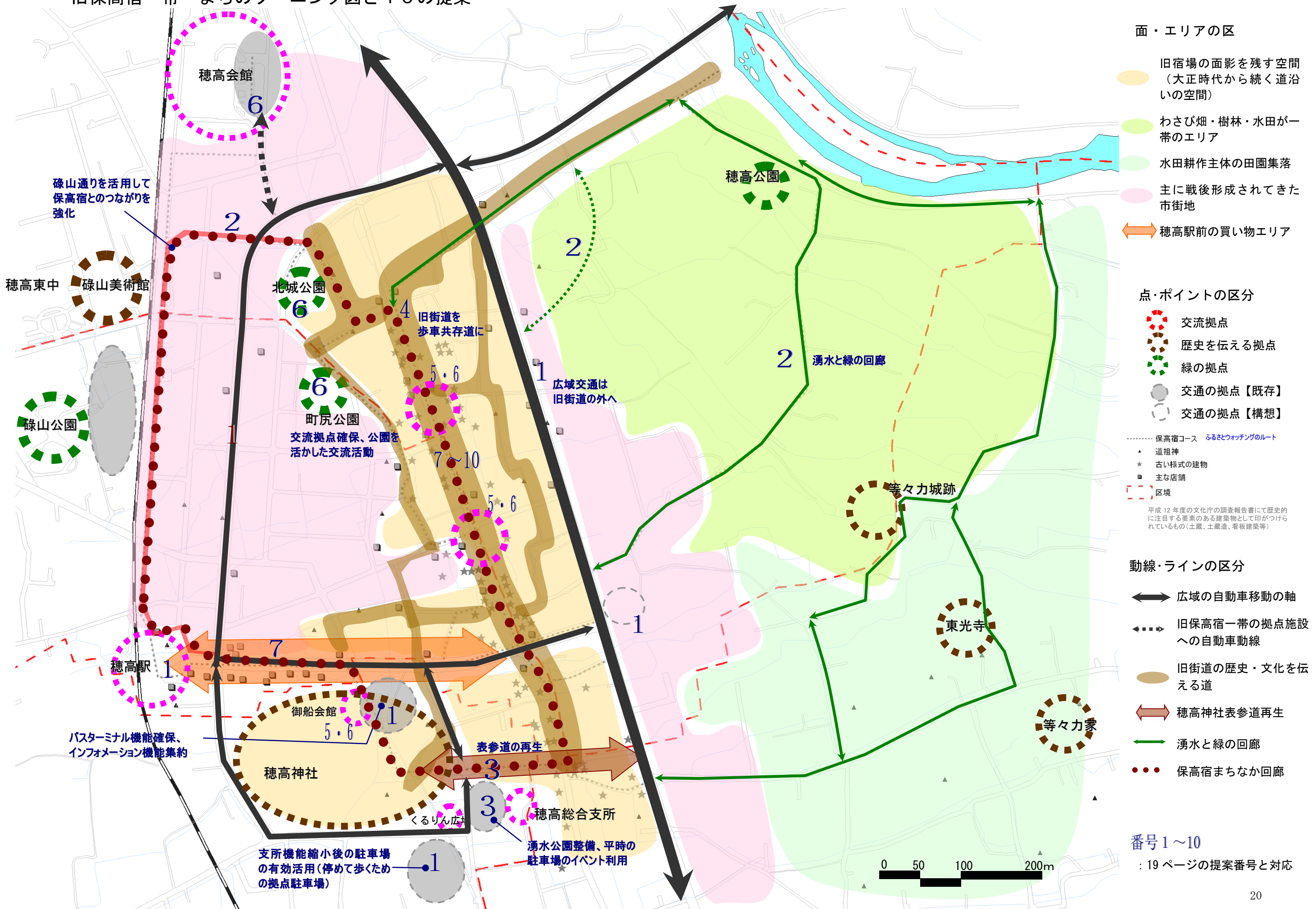
- ・旧街道沿いの一部に水に親しめる空間を創出
(足水・足湯 ポケットパーク 水路再現)

■提案 10 魅力を伝えるしくみ・語り部の育成【関連：A3・B5】

- ・子供たち、次世代に伝える学習や体験を通じ、ゆっくりの楽しみを発信
- ・隠れたものを掘り起こす「保高宿物語」づくりの活動
- ・保高宿の魅力を伝える人・語り部の育成

注) (A1~B5) は 7 ページにまとめた工夫のグループの番号

旧保高宿一帯 まちのゾーニング図と10の提案



4.5 今後のまちづくりの進め方への提案

9 回のワークショップと、フォーラムを経て、今後の取り組み方について、ワークショップの過程でも取り上げられた、ハードとソフトの視点にたって、提案をまとめます。

■ 具体的な取り組みの展開イメージ

ワークショップの過程で出されたソフトとハードに関する提案（7 ページ）を、次のような段階に区切って進める必要があると考えます。

段階1：保高宿物語の掘り起こしと物語を展開するしかけづくり

流れる歴史のなかにいるまちとして、それぞれの時代のもつよさを掘り起こし、伝え残せるしかけや仕組みを生み出す

【ハードに関する主な取り組み】
宿場の名残を残すための調査
ハード整備の具体化、しくみやし
かけも含めた検討

【ソフトに関する主な取り組み】
懐かしいもの、話の掘り起こしを
通じた関心のある方の結集
人が集い、いきかう機会の増加

段階2：参加・連携を通じた保高宿への愛着

しかけや仕組みを通じてより多くの人々が旧保高宿へ関心をもち、
様々な主体が連携して、まちをよくする「まちづくろい」や活動に
参加し、懐かしさを味わいながらまちへの愛着を高める

【ハードに関する主な取り組み】
公的な空間の整備
既存施設を活用した交流拠点
参道整備など

【ソフトに関する主な取り組み】
関係者の結集（継続的な活性化の
組織づくり）
店舗活用面での新たなしくみ

段階3

ま
住む人も来る人も心地よく、楽しくすごせる、暮らせるまちへ、
そして多世代が暮らし続けるまちへ

【ハードに関する主な取り組み】
水路復元などより魅力を高める
施設の整備

【ソフトに関する主な取り組み】
これまでの行事の拡大、新たなイ
ベントなどの充実

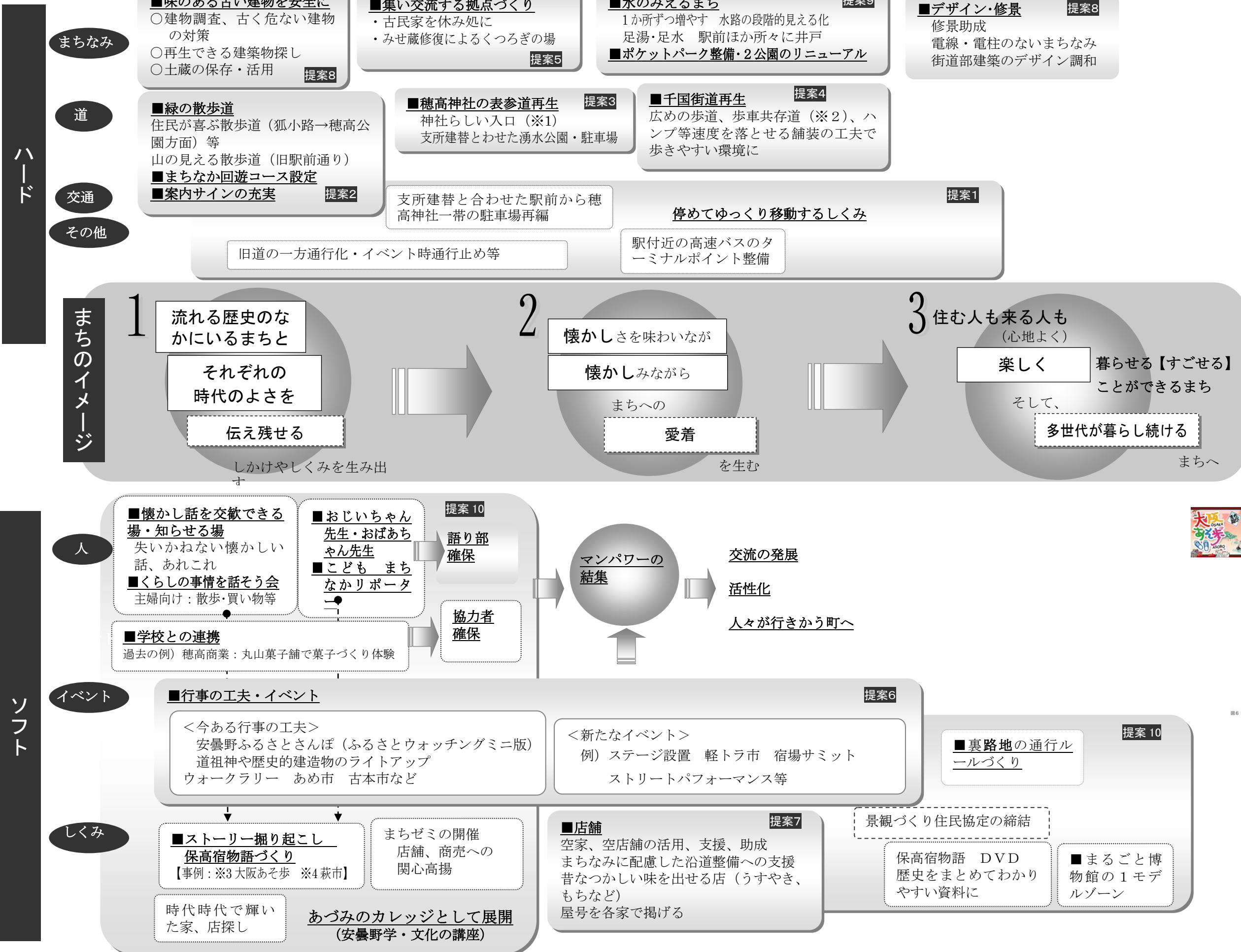
以上3
個々の住宅などのまちなみ整備
イメージにまとめよう。

訪れる人向けのルールづくり等 のペ

考えられる「今後のまちづくりの工夫」を効果的に展開させていく提案

現在

未来



参考例



※1 事例：下諏訪町

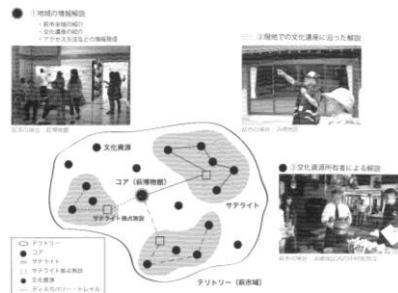


※2 事例：松本中町



※3 事例：大阪あそ歩

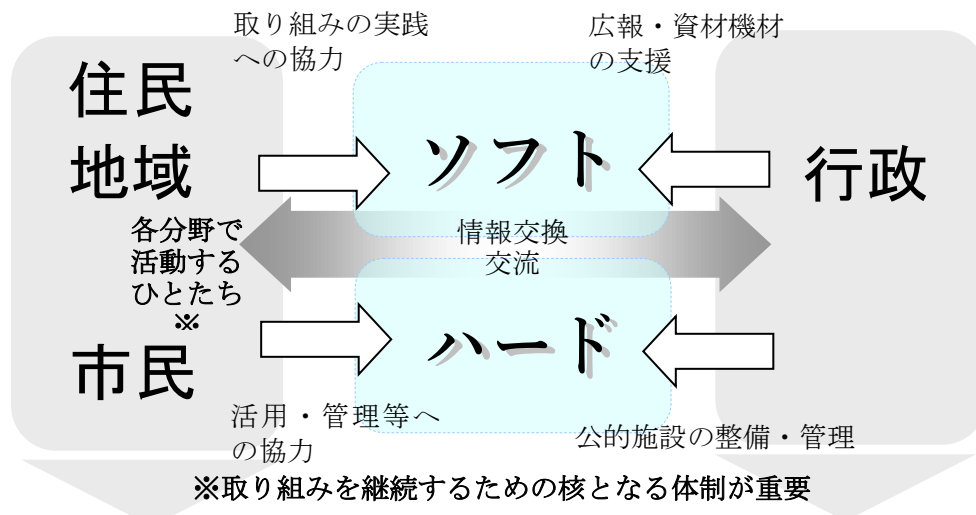
図6 文化遺産・文化資源への誘導と展示の流れ



※4 事例：萩市

■ 進めるための枠組みと当面（第1段階）の取り組み

これまで掲げてきた提案を実現させていくには、下図に示すように、行政と地域・住民とが双方の役割を十分に認識して、協働で必要な取り組みや活動を進めていくことが重要です。私たち市民は、ソフトの取り組み実践への協力、ハードの活用・管理等への協力が重要な役割になると考えます。



推進体制構築

■ 歩いて楽しいまちづくりプロジェクト他による連携体制の強化

歩いて楽しいまちづくりプロジェクト等の市民と行政による協働のまちづくりの考え方に沿った取り組みを、相互に連携して実践できるよう、体制や連携のしくみをより密なものに。

■ 既存制度等の有効活用

当面の課題を解決するために活用の可能性の高い景観法、登録文化財指定などの制度活用をより積極的に。

■ 専門部署の設置

ハードとソフトを融合させ、効果的に市街地の活性化に資する専門部署（まちなみ整備等の担当セクション）の設置を。

ソフト

■ あづみのまちなかカレッジの開講

まち歩きや宝さがし、あめ市、古本市など保高宿での取り組みを年間通じたまちなか大学のイメージで

ハード

■ 古い建物に関する実態把握・荒廃防止対策

市民・行政の協働で、古民家の調査等を実施。その価値や所有者の意向を把握する調査へと発展。

■ 交流の拠点形成

市民・行政の協働で、広場や空き店舗などを有効に活用した交流の場づくりを展開。まずは、推進のための制度やしくみ、活用方策の具体化から。

■ 散歩道の整備・駐車場整備

散策のための案内・サインの充実、穂高総合支所の規模縮小に伴う広場等の整備

■ 表参道の再生

ハード整備への提案

現地での踏査や、ワークショップでの提案、一帯の将来の関連事業の動向などをふまえ、近い将来の実現を目指す効果的と考えるハードの整備についての提案をまとめます。

- 2：礫山美術館と保高宿のつながりを向上**
- ・礫山通りから旧保高宿への案内誘導
 - ・交差点の横断部の安全確保

礫山美術館

8. 公園の活用

北城公園
北の玄関口としてのしつらえに再生・案内ポイント機能強化

町尻公園

7の拠点ではできない野外のイベントなどの拠点として活用

6 道路・交差点等の改良により西方からの自動車誘導を適正に

西からの自動車来訪者を保高宿界隈へ秩序立てて誘導するための踏切部、必要な歩道設置、交差点の改良。

3, 4

現駐車場に高速バスのターミナル機能を。土産物、販売所など団体利用向けの離合集散の機能を集約。案内、情報発信機能の拡充。

穂高会館

千国街道

1：歩車共存道

▲車が申し訳なく通ってもらえるような空間「保高宿通り」へ。

7. 古民家を活かしたまちなか拠点の確保

5. 千国街道沿いの古い建築物の継承

古い建物の安全性の調査
所有者の意向把握
景観重要建築物制度の活用

10. 蔵を活かした広場的な利用拠点の形成

等々力城跡

11. 西側の山並みを活かしながら旧駅前通りの復活 (火の見櫓、常念岳等のみどころ)

国道 147 号

B 東の玄関口となる駐車場

歩いてまちなかを楽しむきっかけをつくり出す(国道東側に駐車場。交番もあり案内、安全管理も効果期待)

東光寺

9, A

穂高神社の表参道空間の整備(表参道部の拡幅、歩道設置、沿道景観修景、駐車場整備)
支所規模縮小に伴い、自由度が増す既存駐車場を、保高宿エリアの入口駐車エリアとして位置付け再整備。

穂高神社

穂高総合支所

くるりん広場



旧保高宿通り まちなみ整備将来イメージ図 (川上恵一氏)